

ナカラ回廊開発の環境社会影響:ナカラ鉄道

ナカラ鉄道:人びとの「足」+マーケット



2014年8月調査時

2014年試運転開始、2015年から「本格操業」(石炭輸送→港湾へ)
2014年調査時当時、以前は1日2本あった旅客列車が1日1本に減少
→駅には乗れない人があふれていた
→それでもたくさんの人の姿が



2014年8月調査時

2016年9月調査時

2018年4月調査時



移動の阻害と事故(妊婦・老人・子ども転落死亡事故&救急車両の線路横断が困難)→コミュニティ分断



移動・輸送手段の激減(週1本いつくるかわからない)
マーケット喪失→経済活動の選択肢の減少



騒音・振動・粉塵

2016年9月調査時

2018年4月調査時



説明・補償なき強制移転



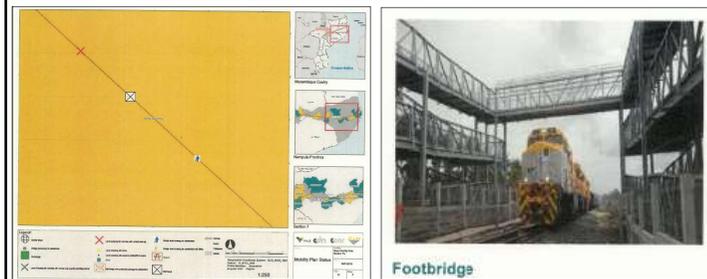
数年後には破壊された補償家屋



土地の強制収容・移転→代替地なし→農地喪失→生業喪失

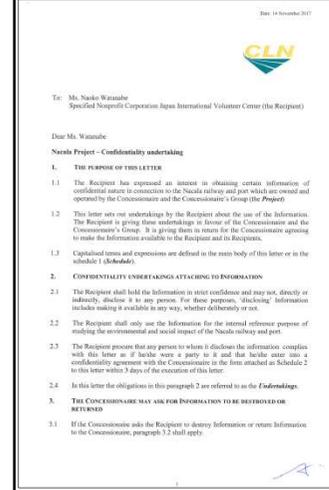


官民連携によるナカラ回廊開発@モザンビーク北部:ナカラ鉄道



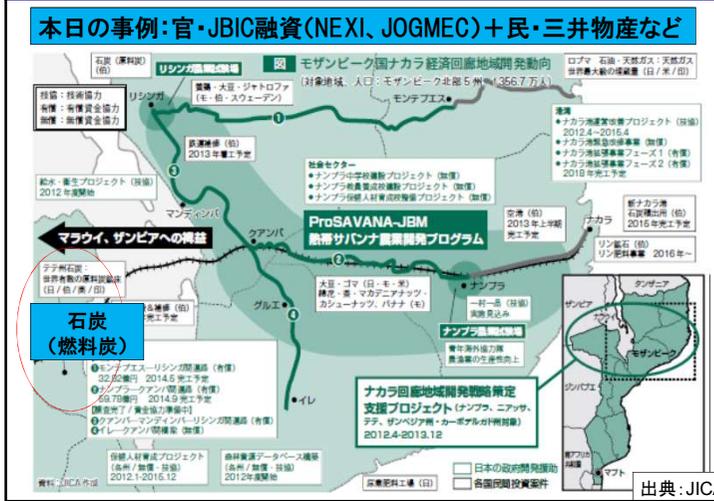
- ・JBIC:約900kmのなかで「事業者が特に影響の大きい140か所対応」
- 歩行者用陸橋、車両用横断路、踏切やフェンスの設置(場所により対応が違う)
- 大気質、騒音の測定値を確認など(数値非開示)
- ・面会の場で地図を見せながら対応箇所などの対応をするようになったが、地名もわからないような大きな縮尺で地図ごとに縮尺が違い対応箇所が特定できない
- 設置・対応の妥当性が判断できない
- ⇒現地農民、NGOらの現地調査結果との齟齬が解消されない
- =被害が解消されていない人びとが確実に存在する

官民連携によるナカラ回廊開発@モザンビーク北部:ナカラ鉄道



- ・ナカラ鉄道整備事業に係るEIA(ポルトガル語で作成)の英訳を求める
- JBIC「企業の機密事項にあたる」
- 三井物産に連絡
- 2017年11月、三井物産から7ページに渡る「機密保持契約書」が連絡もなく送られてくる
- <内容>
- ・故意にあるいは過失により誰にも開示することができない。いかなる方法でも他社がこれを入手することはできない
- ・環境社会影響について個人的な参照としての使用のみ許可
- ・破棄あるいは返却を求められたら3日以内に応じる必要がある

官民連携によるナカラ回廊開発@モザンビーク北部:モアティゼ炭鉱



ナカラ回廊開発の環境社会影響:モアティゼ炭鉱

炭鉱のための広大なコンセッション
 HRW, 2013「鉱山開発に伴う立退き、食料と水が不足」
<https://www.hrw.org/ja/news/2013/05/23/251977>

近年の炭鉱開発に伴った大規模な面積の土地の利用権の企業へのリースと住民の立退きが生じてきた。2008年頃から住民の抵抗・抗議行動が繰り返し観察される一方、政府による激しい弾圧が続いてきた。

2012年1月10日撮影

ナカラ回廊開発の環境社会影響:モアティゼ炭鉱

2016年:テテ州からマラウィへ、10,000人を超える難民



出典: UHNCRサイト *到着したばかりの難民に説明を行っている様子

UNHCR staff brief new arrivals from Mozambique on the registration process in Kapise village in Mwanza district.

ナカラ回廊開発の環境社会影響:モアティゼ炭鉱

2015年6月～
政府軍・警察によるレナモ党首襲撃&レナモ民兵・支援者の掃討作戦



モザンビーク共和国警察下の「特殊急襲部隊」(写真:DW)

難民「警察の特殊部隊(=政府)がやってきて『お前たちはRENAMO(野党)をかばっている』と言われ、村が焼き討ちにあった」(国連報告書より)

ナカラ回廊開発の環境社会影響:モアティゼ炭鉱

2016年1月21日、
モザンビークの政府系新聞記者からのメール。

「プロサバナへの反対は、クーデターを試みという説がある。他党を政権の座につけるため、フレリモ党を政権から引き摺り下ろそうというものだ。コメントしたいですか？」

Em Moçambique temos uma análise que o ProSavana está a ser usado como um meio para fazer um golpe de estado, ou seja retirar o governo da Frelimo para colocar outro governo de um partido que não conheço-- Quer comentar?

開発に反対の声をあげる人=「反政府」とされ、
政治闘争に巻き込まれていく
→情勢悪化、紛争の火種
→事業相手国政府のガバナンス悪化の下支え

ナカラ回廊開発の環境社会影響:モアティゼ炭鉱

2016年6月からJBICおよび財務省との非公式・公式の協議開始、複数回開催
⇒以上の現地調査結果を伝え、被害への対応・改善を求めるとともに、
融資決定しないよう訴えてきた。



しかし・2017年11月JBIC融資決定

ナカラ回廊開発の環境社会影響:天然ガス(CD州)

本日の事例:官・JBIC融資(NEXI, JOGMEC)+民・三井物産など

天然ガス

- ナカラ回廊天然ガスプロジェクト (国債) 2012.4~2015.4
- ナカラ回廊石油パイプラインプロジェクト (国債) 2012.4~2015.4
- ナカラ回廊天然ガスプロジェクトフェーズ2 (国債) 2015.4~2018.4
- ナカラ回廊天然ガスプロジェクトフェーズ1 (国債) 2018.4~2021.4

モザンビーク国ナカラ経済回廊地域開発動向 (対象地域:人口:モザンビーク北部5州(1,356.7万人))

ProSAVANA-JBM 熟練サバナ農業開発プログラム

ナカラ回廊地域開発戦略決定 支援プロジェクト (シンプラ、ニャツァ、チマ、サンジョアケ、カーボデルガド州) 2012.4-2013.12

出典: JICA

ナカラ回廊開発の環境社会影響:天然ガス(CD州)

JAI VISIT FINDS CONFUSION AND DISTRUST IN CABO DELGADO GAS REGION

JUN 27 2019

LEAVE A COMMENT

ACTIVISM, CLIMATE CHANGE, CLIMATE CRISIS, FOSSIL FUELS, FROM THE BEEES GAS LAND GRABBING, LAND USE AND CONSERVATION, POLLUTION AND ENVIRONMENT, RESPONSIBILITY AND JUSTICE, UNCATEGORIZED

・2008年にMEPMOZ(三井物産+JOGMEC)「エリア1」鉱区権益取得
 →探鉱・評価→天然ガス田発見
 →一番長くこの開発事業に関わる
 →エリア1の第二権益者(20%)
 ・以前より、現地の市民団体やジャーナリスト、研究らが
 ・これまでにさまざまな影響、被害を報告、対応(中止)を求めてきた。

ナカラ回廊開発の環境社会影響:天然ガス(CD州)

モザンビークLNGの開発イメージ 三井物産広報委員会: <https://www.mitsuiipr.com/news/2019/0627-1/>

環境破壊、強制移転→生業破壊、格差拡大など

ナカラ回廊開発の環境社会影響:天然ガス(CD州)

Mozambique: Is Cabo Delgado the latest Islamic State outpost?

© 5 May 2020

Islamic State has been behind the growing wave of violence in northern Mozambique

2017年から武装集団による攻撃
 →警察、郡、投資企業、車両の襲撃
 →「政府と協力」として焼き討ちなど住民も巻き込まれる)
 ・2019年6月、ISが当該地域での武力活動発表
「イスラム教徒の富を収奪する十字軍」
 ←さまざまな分析がある(確定はしていないが、ほぼ確定とも言われている)
 →天然ガス開発への執着を見せる

5月5日BBC
 モザンビーク:カーボデルガド州:ISの最新の前哨基地に?

ナカラ回廊開発の環境社会影響:天然ガス(CD州)



https://webronza.asahi.com/politics/articles/2019071000002.html

戦略国際問題研究所(CSIS)によるセミナーでの背景分析(モザンビーク研究者の第一人者、NGO関係者、国務省高官、元駐モザンビーク米国大使)

- ① 国際的な(とくに「東アフリカ地域」に広がる)ジハード運動との繋がり
- ② タンザニアとの「緩い」国境を行き来する「犯罪」との関係
- ③ 海外投資による収奪や格差拡大への不満を土台とした民衆蜂起
- ④ 投資流入に乗じて肥大化する国家エリートや抑圧的な軍・警察に対する政治闘争と報復

ナカラ回廊開発の環境社会影響:天然ガス(CD州)



2020年12月現在、30万人を超える国内避難民が報告されている。

Armed Conflict Location & Event Data Project (ACLED) サイトより <https://acleddata.com/>

2020年6月4日国連(UNOCHA)
 「過去6ヶ月における、カーボデルガード州での武力攻撃が、『規模においても範囲においても拡大』し、220万人の州人口のうち、211,485人近くの国内避難民(IDP)が生じている」

2020年6月

【 声明 】

日本政府とJBICは、有害で、人びとを苦しめる天然ガス開発への巨額公的融資を止めて下さい

2020年7月29日 更新

2020年7月16日、政府系金融機関の国際協力銀行(JBIC)が、モザンビーク北部カーボデルガード州沖で進める液化天然ガス(LNG)開発に、1.5兆円(144億ドル)の協調融資をすと発表しました。JBICはこのうち3200億円(約30億ドル)を融資し、残りをアフリカ開発銀行ほか日本の三大民間銀行(三菱UFJ、みずほ、三井住友銀行)などが融資するといっています。民間金融機関の融資の一部には、貸し倒れリスクをカバーするため、日本貿易保険(NEXI)の保険が付されます。

しかし、この天然ガス開発については、地元と世界から中止を求める声があがっており、6月4日付でモザンビークNGO(Justica Ambiental/JAI(Friends of the Earth Mozambique)などにより発表された反対声明には、モザンビークの環境団体をはじめとする20の団体、14の国際団体、19の地域団体、151の各国団体、そして206人の個人が署名しました。

<https://www.ngo-jvc.net/jp/projects/advocacy-statement/2020/07/20200729-mozambiquestatement.html>

ナカラ回廊開発の環境社会影響:天然ガス(CD州)

JBIC細井:
 質問の3番目から順に答えさせて頂く。最初は、現地の治安情勢に関する基準についてだが、治安情勢については、案件ごとの個別性が極めて高いと思っているので、JBICの中での基準など、そういった一般化されたものは特段ない。ただ、融資検討にあたっては、いろんな公開情報もあるし、実際のオペレーター、プロジェクトの関係者の方などへのヒアリングや、外部専門家に対する情報提供を頂き、その中でプロジェクトの治安情勢を把握し、プロジェクトにおけるセキュリティ対策の適切性などを分析している。

4点目の質問、現地の人々の治安確保の問題についても、住民の安全確保に関しての重要性は我々としても認識しているところ。当然、プロジェクトの関係者のみならず、その周辺の地域住民に係るセキュリティ対策も含め、プロジェクトの関係者から情報を入手しているし、加えて、外部専門家にリスク分析を依頼するなどしながら、必要な情報収集を行い、対策の適切性を確認している。

2020年6月19日開催 財務省NGO定期協議 議事録
http://jaces.org/wp_jp/wp-content/uploads/2020/11/mof73-1.pdf

「地域住民の安全確保の重要性」

ナカラ回廊開発の環境社会影響:天然ガス(CD州)

日本経済新聞 記事利用について

アフリカLNG開発、官民で1.5兆円融資 調達先多角化
【イフニクスグループ】

2020/7/2 18:00 (2020/7/3 5:21更新) | 日本経済新聞 | 電子版



写真するLNG船3隻はJERAが所有。東北電力が所有する(千葉県富津市のJERA富津LNG基地)

官民がアフリカ・モザンビークの液化天然ガス(LNG)開発に1.5兆円を協賛融資する。国際協力銀行(JBIC)や3メガバンクなどが融資し、日本貿易保険(NEXI)が貸し倒れリスクをカバーする。長期的な安定生産や調達先の多角化を進める好機とみて資金を投じる。

https://www.nikkei.com/article/DGXMZO6107227050A700C2EE8000/?n_cid=NMAIL007_20200702_Y

しかし・・・2020年7月、
JBIC(公的資金)→三井物産への3200億円融資決定

官民連携によるナカラ回廊開発による環境社会影響

- 現地の人びとから見たナカラ回廊開発
 - =現地NGOや専門家などから指摘されている
 - =日本の市民の現地調査等で確認されている
 - ・さまざまな形での人権侵害・被害
 - 環境破壊、生業破壊・喪失、虐待、強制移転・土地収用
 - ・社会への悪影響、状況悪化
 - 現地のガバナンス悪化への加担
 - コミュニティ分断、格差拡大、紛争・難民、テロ

- ・情報開示:公共性の高い事業+実際に生じている被害
 - 「情報」は企業のもので認められるのか?
- ・無視される現地市民、日本の市民からの情報や声
 - 事実として認められないのはなぜなのか?
- ・事業設計・評価のあり方:広範な地域に渡る社会環境改変
 - 「不可逆」であり「不可分一体」であるという前提・認識